

平成 26 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2014

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジアⅡ講座・准教授
氏名 Name	加藤昌彦
専門分野 Academic Field	言語学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	ビルマ語及びポー・カレン語の記述研究
<p>ビルマ語とポー・カレン語について、下記のようなテーマで調査・考察し、学会発表あるいは学術論文の執筆を行った。</p> <p>(1) ビルマ語の事象キャンセル</p> <p>ビルマ語では、「燃やした。しかし燃えなかった」「殺した。しかし死ななかった」というような文連続が可能である。このような現象を事象キャンセル(event cancellation)と呼ぶ。これについて、国際東南アジア言語学会で下記の研究発表を行った。</p> <p>“Event cancellation in Burmese.” 24th Meeting of the Southeast Asian Linguistics Society, Yangon. (2014年5月29日)</p> <p>発表の主旨は、ビルマ語の意志動詞が事象の終端への到達を含意しないということである。また、この発表の内容を発展させ、下記の論文にまとめた。</p> <p>「ビルマ語の事象キャンセル」『EXORIENTE』22号(2015年3月出版予定。ページ数未定)</p> <p>(2) ポー・カレン語の使役と逆使役</p> <p>ポー・カレン語の使役構文と逆使役構文について、下記の発表を行った。ポー・カレン語においては逆使役構文が思いのほか重要な役割を果たしていることが明らかになった。</p> <p>「ポー・カレン語の使役と逆使役」TB+研究会、京都大学人文科学研究所。(2015年1月25日)</p>	